

豊かな老後は自分でつくる — 超高齢社会を生きる知恵

医療法人社団 慶成会会長

おお
つか
のぶ
お
大塚宣夫

- * 高齢者施設の実態に驚き開設を決意
- * 医療、介護、生活をトータルに提供
- * 介護を国や家族に頼れない現実
- * 老後対策が必要なのは女性より男性
- * 外から声をかけられたら全て出席する
- * とにかく他人の世話にならない覚悟
- * 貯めたおカネはこの時こそ使え
- * 介護こそプロの技術が要求される
- * 病院に入ったら薬と管だらけに
- * 年寄りの定義を見直せ



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は慶友病院の大塚先生に来ていただきました。タイトルにありますように、充実した老後を過ごして、いかに人生を全うするかというようなことをお話しただけだと思います。慶友病院は現在、青梅とよみうりランドにございまして、たいへん人気のある病院です。病院といっても治療するというよりも介護の部分が必要で、安心して最後まで気持ちよく過ごることができるということですが、こういう施設が日本にはたいへん不足している。しかも、そういう考え方というものが必要しも今の制度の中では十分ではないということで、大塚先生がそういった分野を切り開いてまいったわけでございますが、何よりもわれわれ自らが自立し

た老後をつくらなければいけないと。今日はそうした知恵をお話しただけというふうに思います。

では大塚先生、よろしく願いたします。（拍手）

大塚 ただいまご紹介いただきました大塚でございます。

今日はいへん伝統ある経済倶楽部の講演会にお招きをいただきまして本当にありがとうございます。私はこんなにとくさんの方々の前でお話しするのは不慣れであり、話し手としてはまったくの素人ですので、その点どうぞご容赦下さい。

私は東京の青梅とよみうりランド2ヶ所でお人病院をやっております。最初の病院は開設し